

宮古港開港400年のあゆみ

宮古市教育委員会事務局
文化課 市史編さん室
假屋 雄一郎



現在の宮古浄水場に立つ記念碑



高さ360cm×幅160cm

開港記念碑

大正4年(1915)・・・常安寺門前の天満宮に「開港記念」碑

↑ 宮古港開港300周年

元和元年(1615)・・・利直公の来宮、町割



下閉伊郡役所(現在の市役所分庁舎)前の開港記念碑 昭和10年(1935)頃



宮古開港300年を祝う仮装行列 大正4年(1915)

慶長の大津波

慶長16年(1611)10月28日

「海辺通は一軒もなく波にとられ、人が死に、家をとられた人は路頭に迷った。津軽石は市日のため150人が死んだ」

南部利直公

- 第2第盛岡藩主
- 盛岡城の築城、城下町の整備、領内の安定
- 三閉伊御城代小本助兵衛正吉を派遣



南部利直公肖像画 もりおか歴史文化館蔵

利直公と宮古港

・元和元年(1615)

4月晦日 領内整備のため震災後の視察に宮古を訪れて、
30日程逗留

5月3日 黒田の上の山、大石に上り御見分

5月5日 水主丁橋の上に登り、「市を立てても苦しからず」
本町と町割

9



町割石 宮古市沢田

10

利直公と宮古港②

・寛永9年(1632)

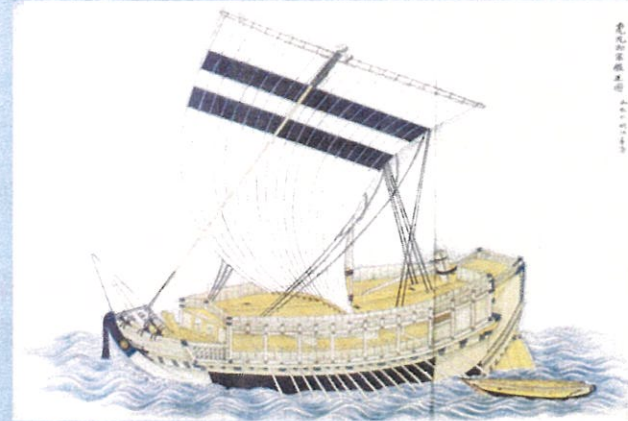
3月18日 小本助兵衛、新町・田町・横町・御水主丁を町割

・慶安4年(1651)

2月5日 閉伊宮古御船繕奉行を宮古へ遣わし、新造船仰せ
付ける

⇒御手船「宮古丸」「虎丸」の配備

11



虎丸御軍艦正図 もりおか歴史文化館蔵

12

宮古港開港の歴史的意味

- ・元和元年(1615) 武家諸法度、参勤作法の事
- ・寛永12年(1635) 大名の参勤を制度化

盛岡藩領から江戸へ米などの物資を運ぶ必要性

田名部・野辺地(青森県)→上方(大阪):日本海沿岸航路
寛文10年(1670) 河村瑞賢「東廻航路」の整備

宮古港(鋤ヶ崎) →江戸(東京):東廻(太平洋)航路

「御手船」宮古丸・寅(虎)丸の配備

「御船頭」「御水主」の配置

宮古通／宮古代官所

宮古港は「海辺御要地」

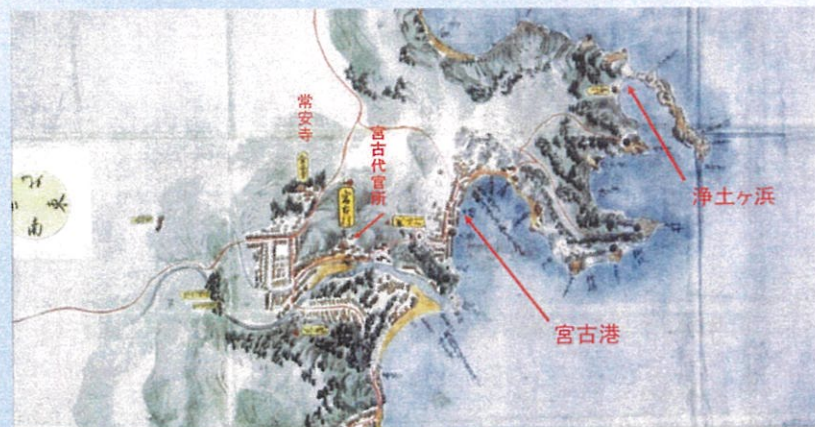
元文元年(1736) 盛岡藩から宮古代官へ通達

鋤ヶ崎浦＝海辺御要地

水主等も前々より配置

海辺山林⇒漁のためになるよう心がけ

(『盛岡藩雑書』より)



三閉伊通海岸整正分間絵図

もりおか歴史文化館蔵

『邦内郷村志』寛政9年(1797)

	御蔵地高	給地	馬	民戸	民戸の内
宮古村	141石9斗余	6石余	72疋	159軒	41軒藤原
黒田村	167石7斗余	4石2斗余		157軒	13軒小澤
磯鷄村	9石7斗余	319石5斗余	62疋	110軒	13軒神林・10軒白浜・45軒明日瀧
八木澤村	18石7斗余	120石9斗余	91疋	46軒	
小山田村	65石余	野田覚蔵給地	36疋	31軒	9軒栃木・9軒山崎
金濱村	43石2斗余	舟越龍司給地	11疋	37軒	
高濱村	16石3斗余	23石余	46疋	95軒	9軒跡濱・3軒太田之濱
津軽石村	202石1斗余	107石3斗余	264疋	183軒	11軒根井澤・15軒拂川・30軒荷竹・13軒法之脇・19軒馬越・23軒藤畑
赤前村	77石4斗余	248石3斗余	110疋	82軒	9軒山崎・6軒大畑・10軒柳澤・9軒沖村・6軒神田・5軒小堀内・5軒大堀内
重茂村	90石8斗余	47石4斗余	45疋	175軒	6軒戸之崎・36軒乙部・16軒石濱・4軒川代

『邦内郷村志』寛政9年(1797)

	御蔵地高	給地	馬	民戸	民戸の内
山口村	214石余	65石余	111疋	70軒	11軒赤畑・14軒駒込
田代村	13石8斗余	137石9斗余	189疋	150軒	9軒白木澤・9軒芋野・26軒左羽根
千徳村	9石3斗余	163石6斗余	161疋	146軒	10軒長沼・8軒中坊7軒澤・5軒中坊・9軒高屋敷
近内村	26石4斗余	65石7斗余	62疋	55軒	4軒石澤村・4軒坂本・4軒明神下・3軒蜂ヶ澤・10軒中村
根市村	45石6斗余	播山帯刀四戸儀之助儀	42疋	54軒	6軒高屋敷・6軒成ヶ澤
花原市	16石1斗	播山帯刀	23疋	22軒	10軒上村・6軒下村
花輪村	119石2斗余	605斗余	92疋	57軒	8軒保戸窪
長澤村	13石4斗余	101石8斗余	191疋	156軒	13軒大野・14軒折(織)壁
鎌ヶ崎村	173石1斗余	2石1斗 諸役免地	96疋	281軒	9軒日出島・14軒大附・17軒古里・9軒早稲枋・7軒下在家・10軒大澤
崎山村	21石4斗余	109石余		78軒	21軒遊女部・30軒箱石・2軒屋土・6軒末屋敷

宮古港

南部宮古 上下川湊 久慈へ十五里

閉の宮古ともいふ湊へ入る、取梶(舵)にとどが崎といふ磯鼻有、又面梶より半丁沖に筆嶋(日出島)と云う嶋有り、奥入れば野間という上り湊有り、面梶に磯有り、取梶して入り右の間に船二三艘は懸る、野間より奥へ入れば松山の鼻有り、この鼻落磯有り、少し取梶して廻る所にくわが崎と云う湊有り、是が閉の宮古の湊なり、この奥に津軽石といふ大川有り...(以下略)...

「日本夕路之記」寛政8年(1796)より



宮古港・漁港の位置



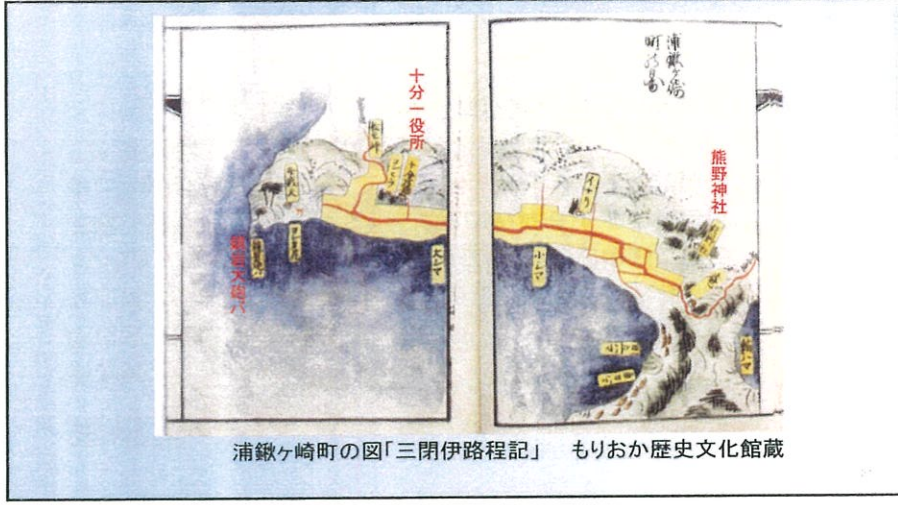
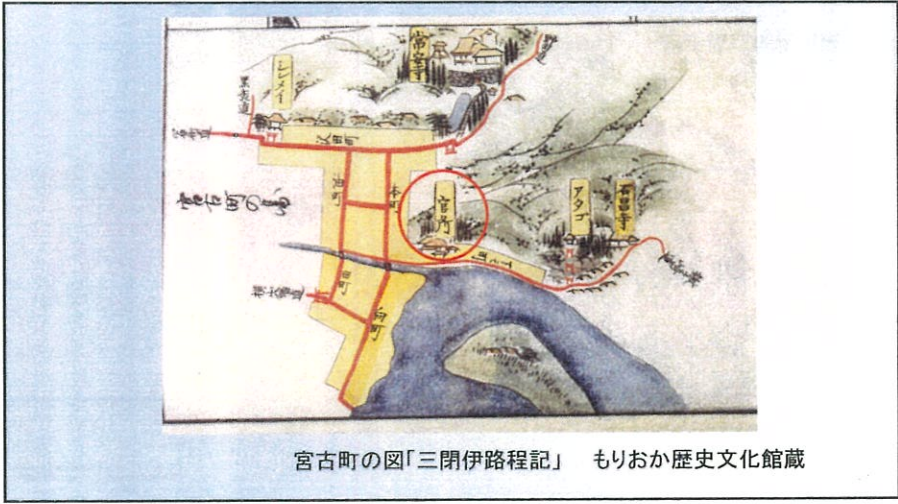
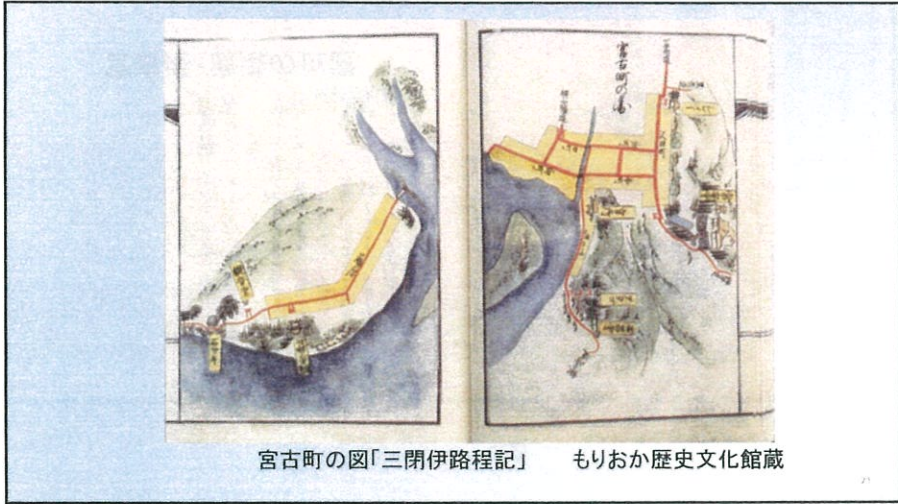
この影に浄土の浜といふて 奇岩おかく 岩穴の中 遊山ふねなど 出入して 眺望いわん かななし 八戸穴といふもこの処にあり

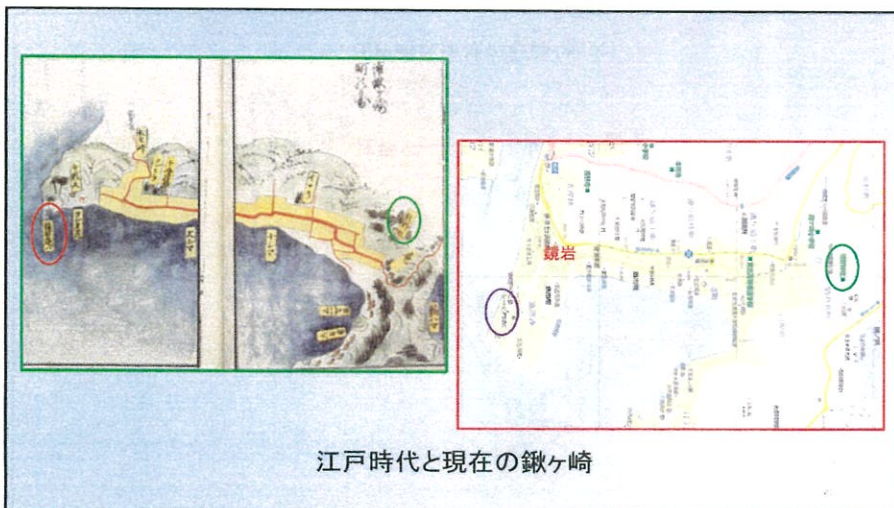
鎌ヶ崎湊ハ いたつて舟入よく なに船にてもこの沖合 通航ハこのまに 入らざる事となし 故ニ御領一の繁地也 尤舟岩艘十五兩位 つこのならし

鎌ヶ崎へ散財と見込よし 三十艘も舟入 あら八百六十人斗の 遊女にてふそくのよし

鎌ヶ崎町家 三百軒斗 の内遊女 百六十人斗 あるよし

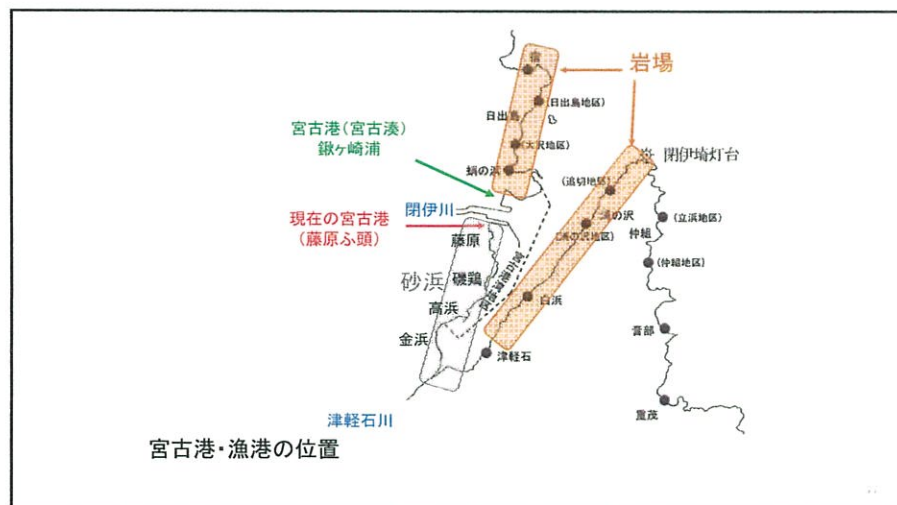
鎌ヶ崎「三閉伊日記」 嘉永7年(1854) 岩手県立博物館蔵





江戸時代と現在の鯨ヶ崎

宮古湾の漁業と交易



宮古港・漁港の位置

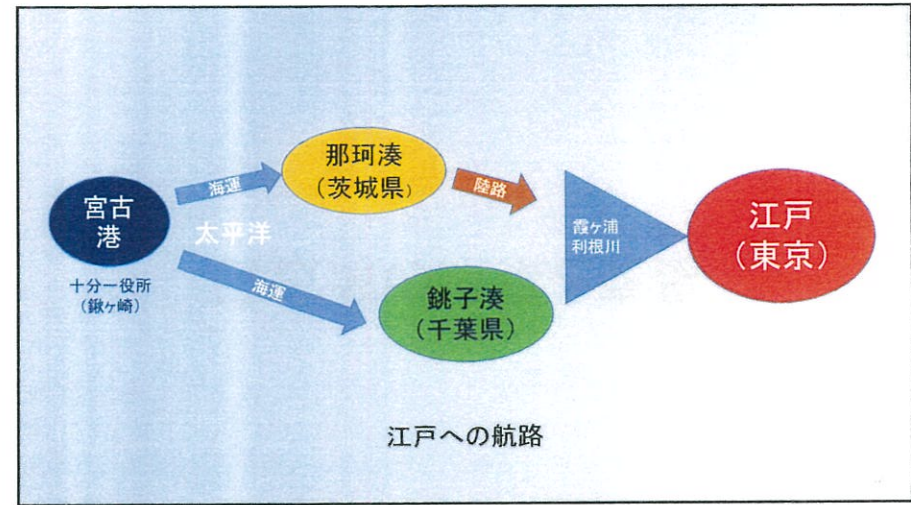
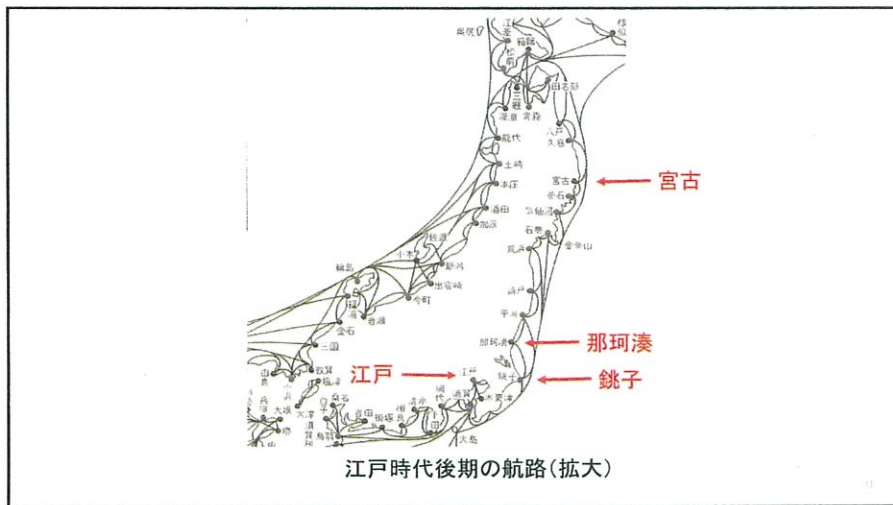
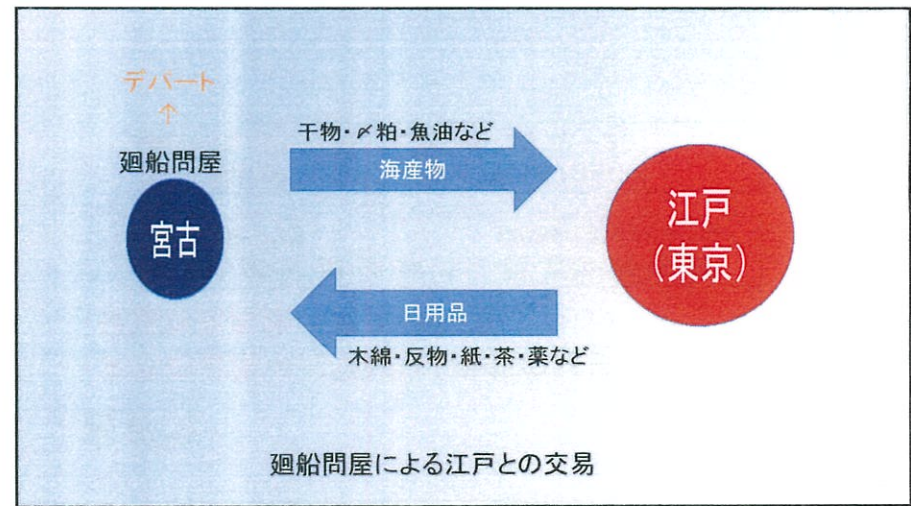
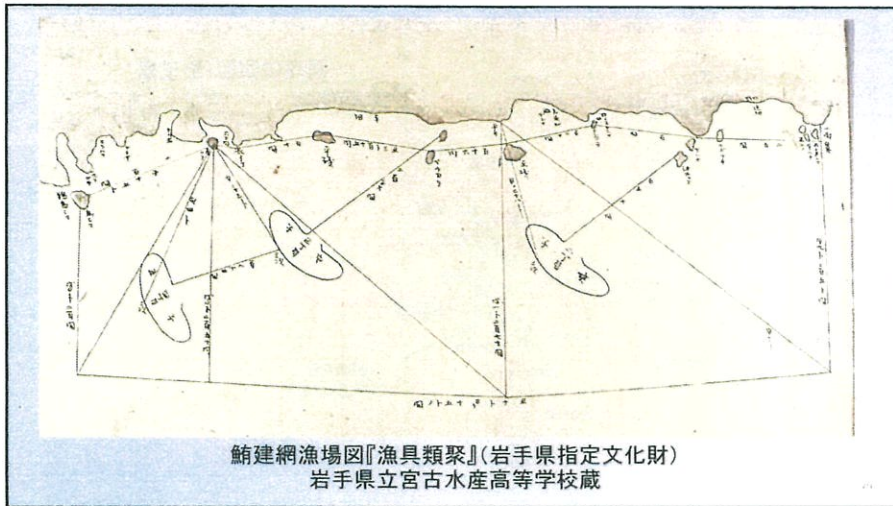
宮古湾

- ・天然の良港⇒江戸時代「南部の宮古港」
- ・豊富な海産物⇒漁業の発達

鮭塩引・鯛・鰯・鱈・鱒・鰯・赤魚・鯉・鯉節・蛸・鮑・鰈・
 鯛・魚油・小麦

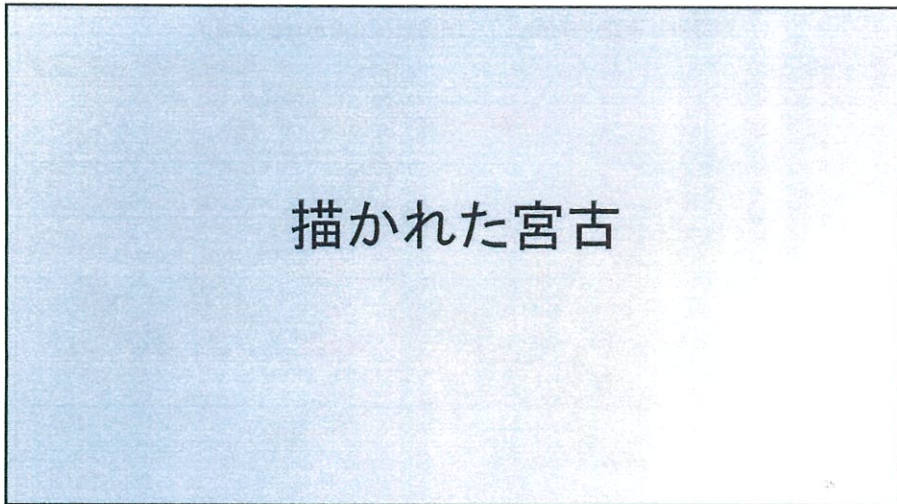
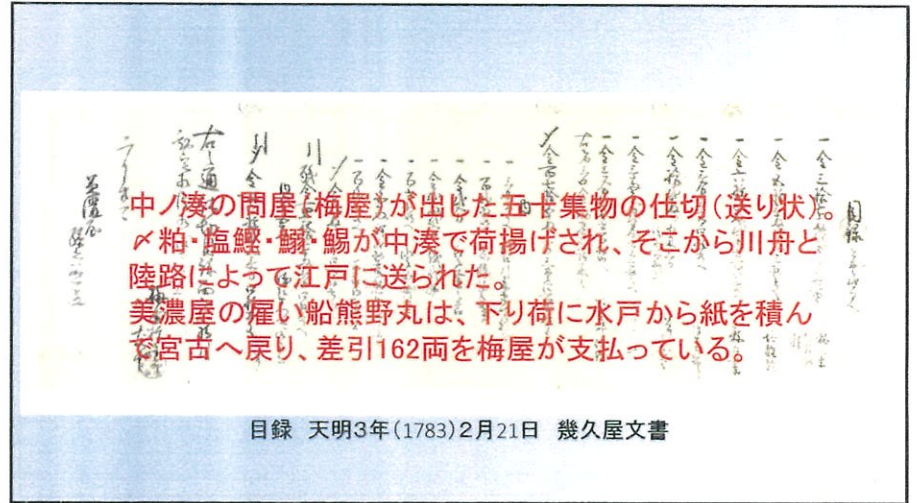
『邦内郷村志』寛政9年(1796)

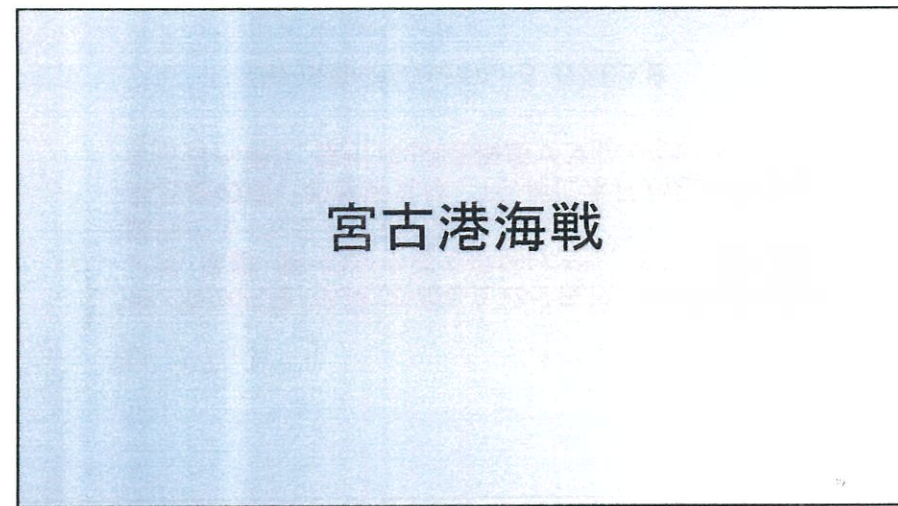
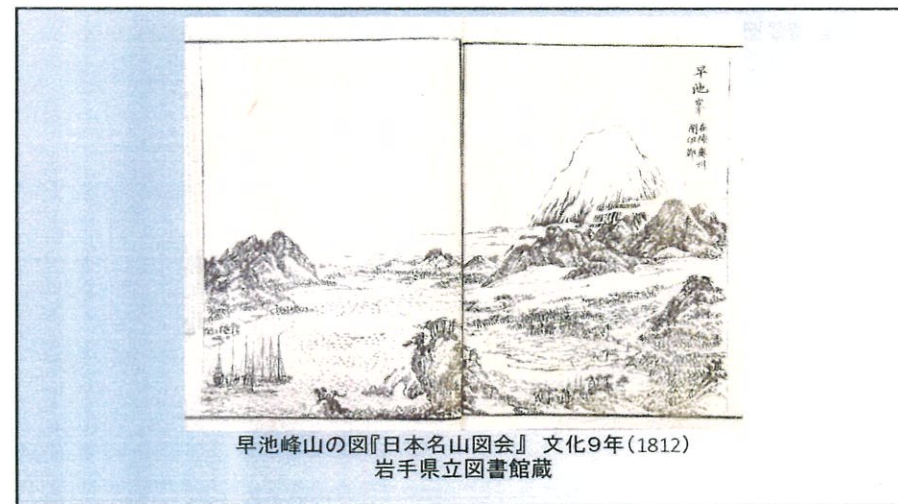
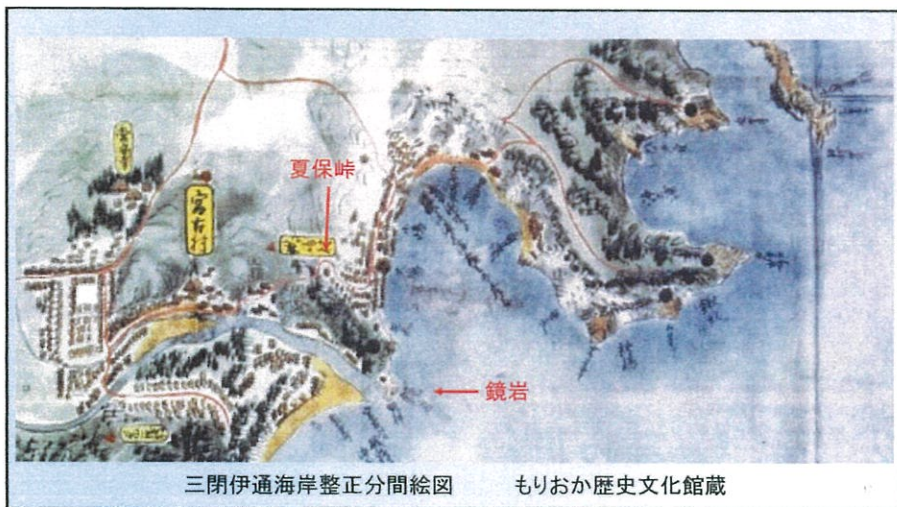
鰯 → 地引網・小舌網 延宝年間(1673~)?
 鮭 → 鮭大網(建網) 文政年間(1818~29)





俵物(レプリカ):(左上)鱧鱈、(右上)干鮑、(下)煎海鼠
岩手県立博物館蔵





宮古港海戦の概要

明治2年3月25日(1869年5月6日)

新政府軍の艦船8隻が碇泊

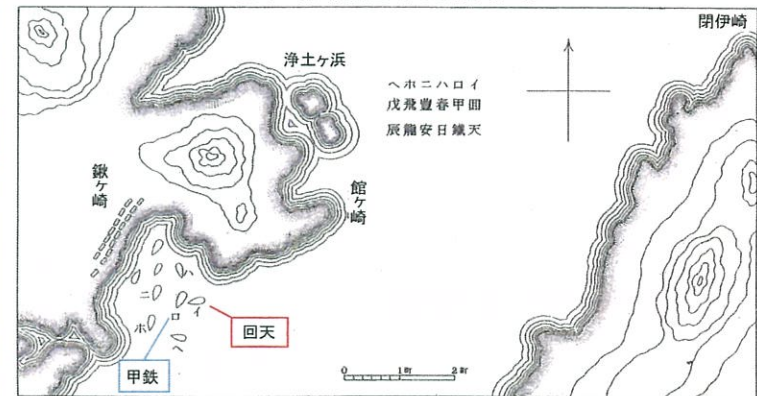
旧幕府脱走軍の軍艦「回天」が襲撃

新政府軍の軍艦「甲鉄」を奪おうとする

→30分余りの戦闘、回天の退却

41

置位碇泊艦軍内港古宮



宮古港内軍艦碇泊位置『甲賀源吾伝』より

42



宮古港海戦の図 ホテル沢田屋蔵

43



中里団地の官軍勇士の墓(宮古市指定文化財)

44



藤原の幕軍勇士墓碑(宮古市指定文化財)



大杉神社境内の宮古港戦蹟碑 大正6年(1917)



浄土ヶ浜の宮古港海戦記念碑 昭和43年(1968)

なぜ「宮古港」なのか？

東廻航路の重要な寄港地 ⇒ 燃料・水・食料の補給

◆ 旧幕府脱走軍艦隊

仙台藩領の折浜 → 宮古(3日間逗留) → 函館

◆ 新政府軍艦隊

横浜で石炭補給 → 宮古鋸ヶ崎に集結

野田から石炭を宮古に輸送

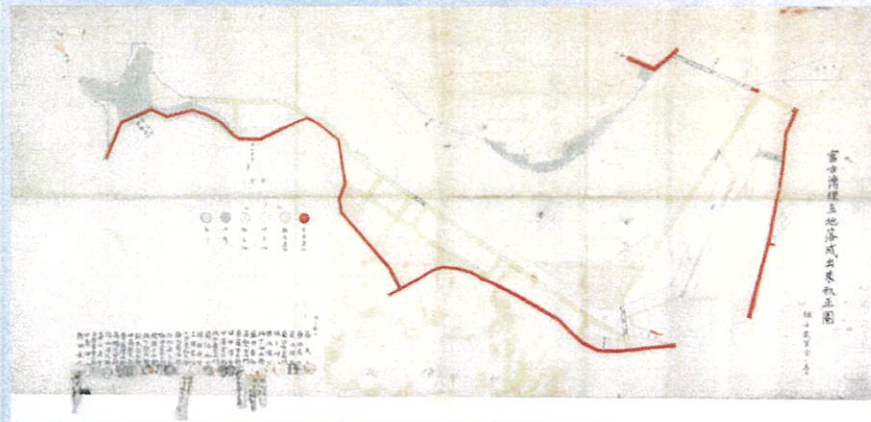
3月20日 軍艦に石炭を搬入

3月25日 「回天」の襲来

近代の港湾整備 ～ 明治・大正時代～



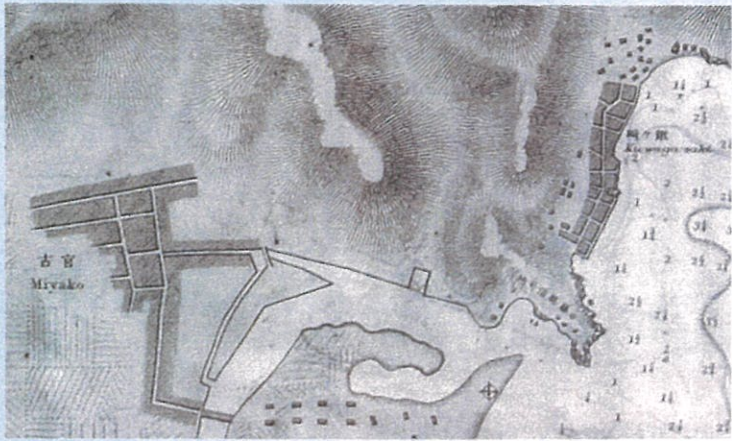
海図第3号「陸中国宮古港之図」
明治5年(1872)10月
海上保安庁海洋情報部蔵



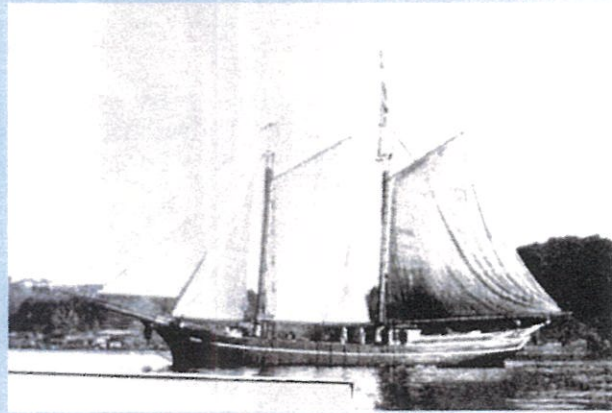
宮古湾埋立地落成出来形正図



海図「宮古港」明治22年(1889)
岩手県立宮古水産高等学校蔵



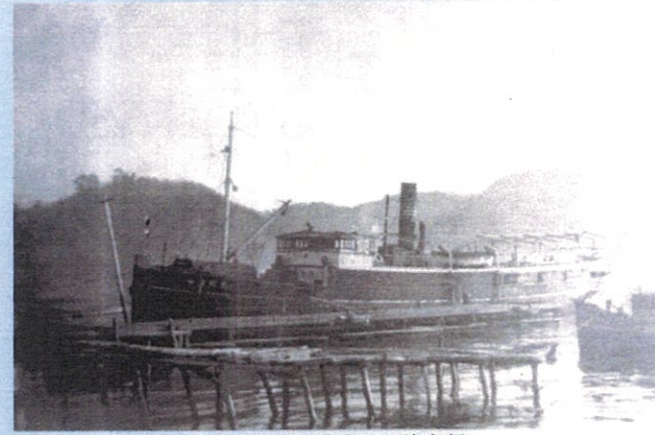
海図「宮古港」(宮古・磯ヶ崎)



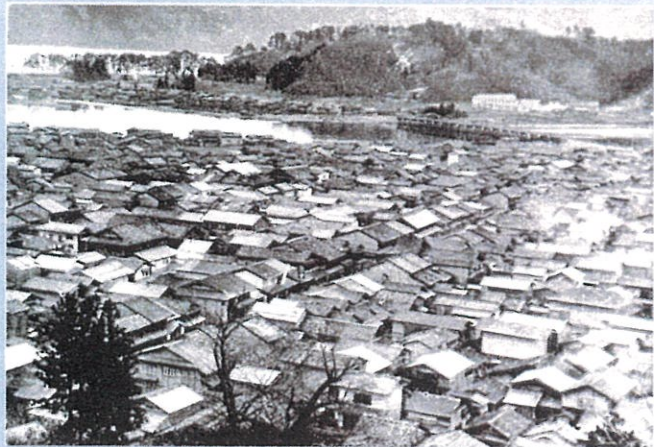
遠洋漁業船「東海丸」 明治40年(1907)年頃



宮古港(磯ヶ崎) 明治40年(1907)頃



宮古港に碇泊する三陸汽船

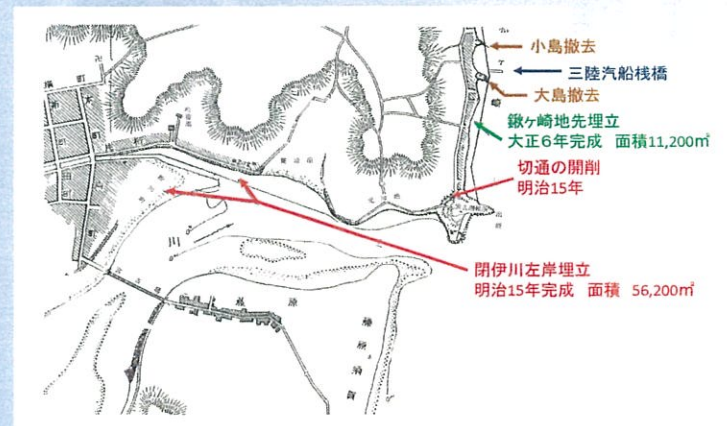


宮古町 築地から藤原を望む 明治45年(1912)頃



宮古町の市日 明治45年(1912)頃

大正時代の鍬ヶ崎埋立



明治初期から大正時代の修築事業 「宮古港工事事務所30年誌」より

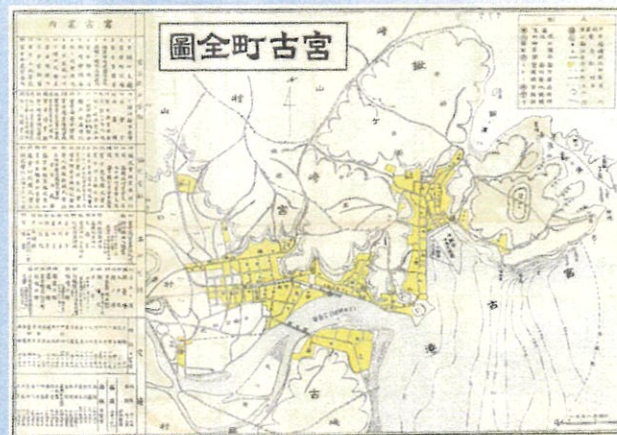


鎌ヶ崎の町並み 大正13年(1924)

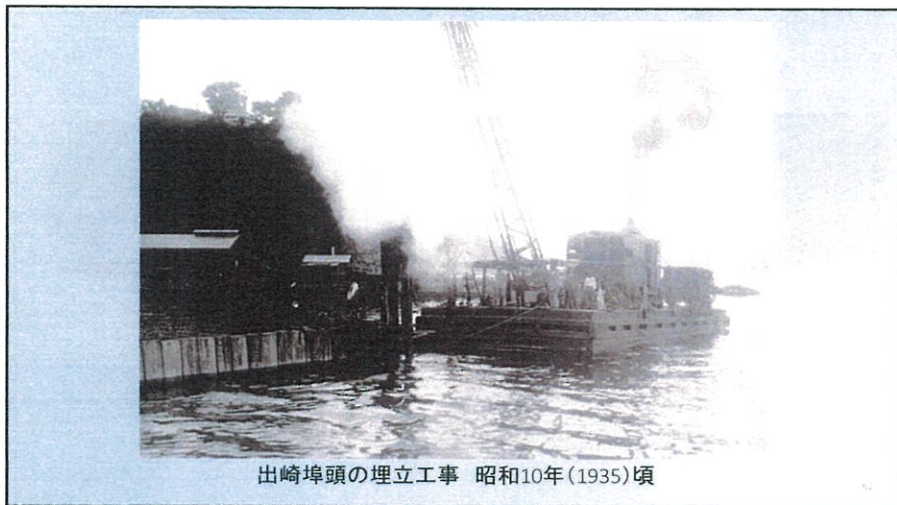
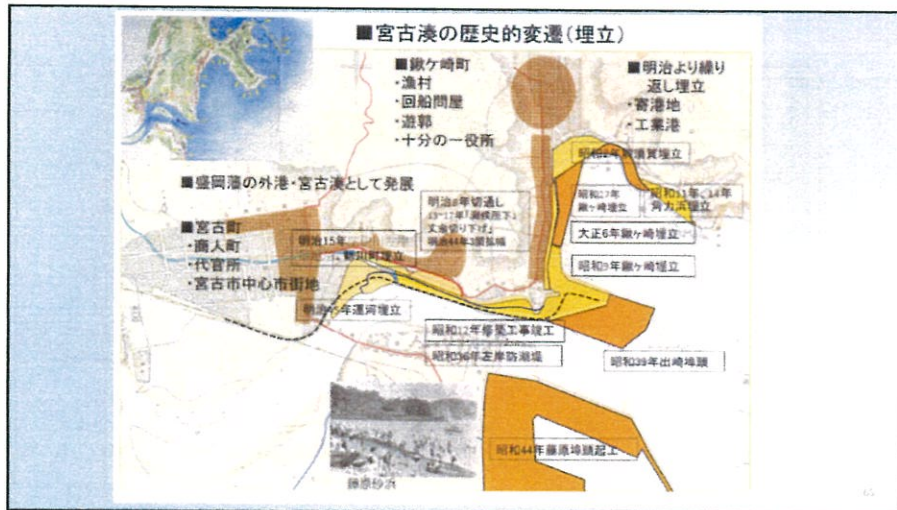


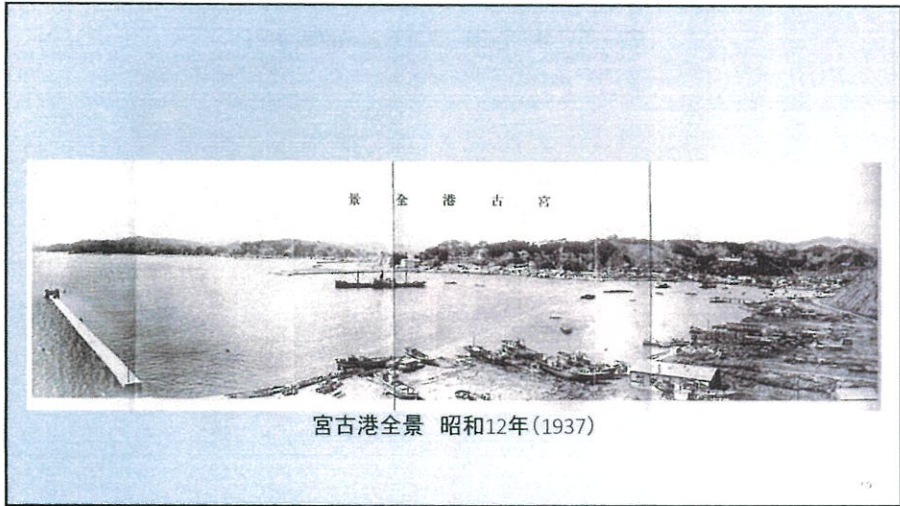
宮古港(鎌ヶ崎) 大正13年(1924)

昭和の宮古港修築

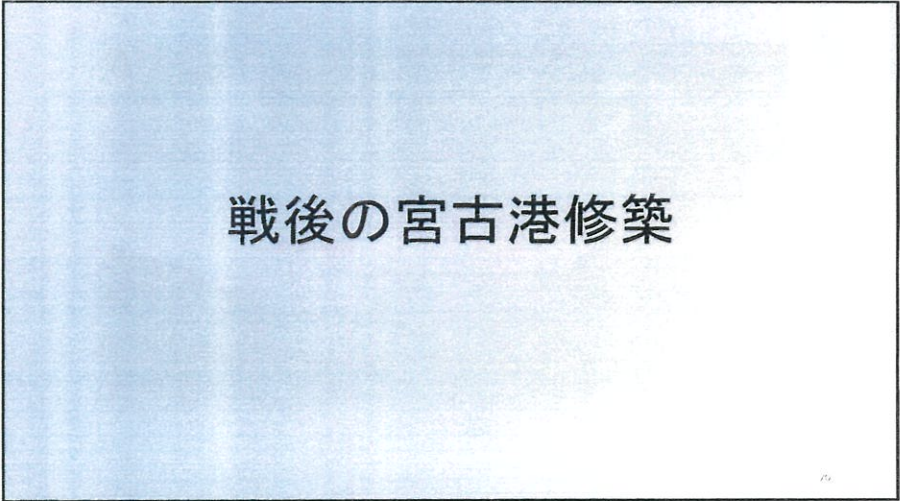


宮古町全図 昭和3年(1928)





宮古港全景 昭和12年(1937)



戦後の宮古港修築



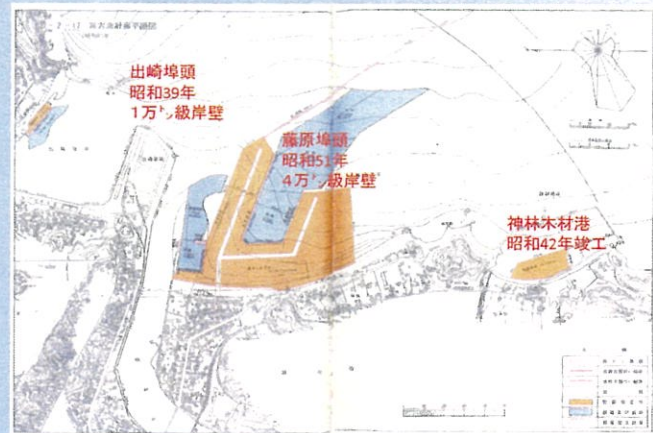
宮古市街地図 昭和21年(1946)



全国一のサンマ基地宮古に480隻が集結
昭和34年(1959)9月 撮影:北村嘉男



宮古市航空写真 昭和30年(1955)頃



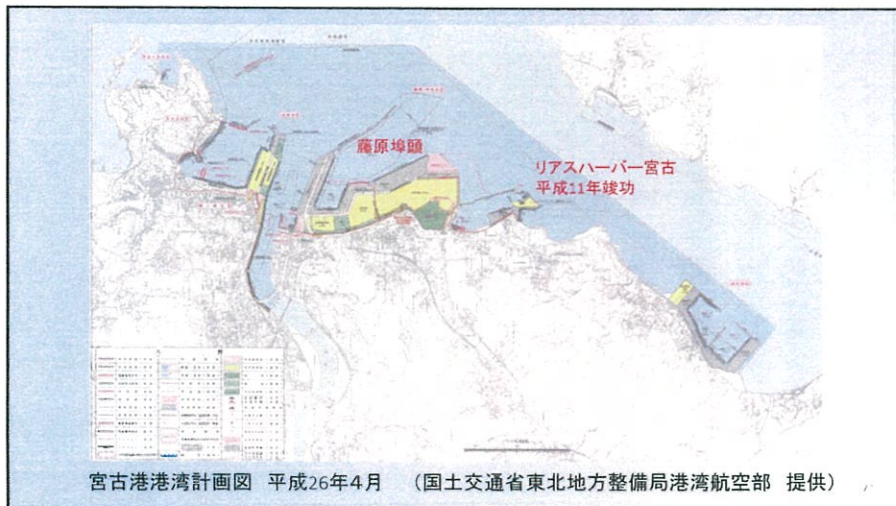
宮古港計画平面図 昭和43年(1968) 「宮古港工事事務所30年誌」より



藤原須賀 昭和10年(1935)



藤原須賀 海水浴場 昭和32年(1957)頃



港町みやこの発展と津波

- 400年間の津波
- 被害が記録されたもの **15回**

$400年 \div 15回 = 26.6 \dots$

→**およそ30年**に1回、津波が来る！

海＝港町宮古発展の原動力

75

